

ロボットがつなぐ人に優しい社会



出展のご案内



© UDAGAWA YASUHIITO 1998

2022国際ロボット展

INTERNATIONAL ROBOT EXHIBITION 2022

2022年3月9日(水)～12日(土) 10:00-17:00 東京ビッグサイト 東1～8ホール

主催



一般社団法人 日本ロボット工業会
Japan Robot Association



日刊工業新聞社

ロボットがつなぐ人に優しい社会

国際ロボット展は1974年の初開催以降、隔年で開催し、今年で24回目を迎えます。

近年では“世界最大規模のロボット専門展”として、国内外から高く評価されています。

「2022国際ロボット展」は、人とロボットが共存・協働する社会を目指し、

「ロボットがつなぐ人に優しい社会」をテーマに開催いたします。

会期中は、国内外より最先端のロボットが展示されるほか、AI・ICT・要素技術など

ロボットに関わる高度な技術が一堂に展示されます。

世界中のロボット関係者やユーザーが集う、

「2022国際ロボット展」へのご出展を心よりお待ちしております。

一般社団法人日本ロボット工業会
日刊工業新聞社



開催概要

名 称 | 2022 国際ロボット展 [INTERNATIONAL ROBOT EXHIBITION 2022 (iREX2022)]

開催趣旨 | 国内外における産業用・サービス用ロボットおよび関連機器を一堂に集めて展示し、
利用技術の向上と市場の開拓に貢献し、ロボットの市場創出と産業技術の振興に寄与する。

テ ー マ | ロボットがつなぐ人に優しい社会

主 催 | 一般社団法人日本ロボット工業会、日刊工業新聞社

会 期 | 2022年3月9日(水)～12日(土)

開催時間 | 10:00～17:00

会 場 | 東京ビッグサイト 東1～8ホール

入 場 料 | 1,000円 ※事前登録者および招待券持参者、中学生以下は無料

世界最大級の ロボットトレードショー

2019年
実績 出展者数 **637** 社・団体
出展小間数 **3,060** 小間

海外出展者は16カ国/95社・団体、総来場者数は14万人を超え“世界最大規模のロボット専門展”として高い評価をいただいています。



最先端ロボット技術・製品が集結 多彩な併催事業

国内外のロボットメーカーおよびロボット関連企業の最新技術・関連製品を一堂に展示し、新規ビジネスに直結する商談が行われます。各種フォーラムや出展者セミナーなど、多彩な併催事業を連日開催し、最先端のロボット・テクノロジーを世界に発信します。



メディアの強みを生かした様々な プロモーションによる来場者誘致

新聞、専門誌をはじめ、デジタルメディア等の各種媒体を通して、ビジネスに直結するユーザー層の来場を誘致します。さらに今回から、メディアの強みを最大限に生かしたオンライン展示会の同時開催を予定しています。リアルとオンラインのハイブリッド開催により、さらなる販路拡大と潜在顧客の獲得を可能にします。



TOPIC オンライン展示会の 開催について

「2022国際ロボット展」はリアルおよびオンラインでのハイブリッド開催を予定しています。オンラインでの開催時期・期間・料金体系等は、決定次第、公式Webサイト等でご案内させていただきます。



※画像はイメージです。

後 援	経済産業省	総務省	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)			〈順不同、申請予定、法人格略〉
	厚生労働省	文部科学省	日本貿易振興機構 (JETRO)			
	国土交通省	日本商工会議所	日本放送協会 (NHK)			
協 賛	計測自動制御学会	日本機械工業連合会	日本自動車部品工業会	日本半導体製造装置協会	日本包装機械工業会	〈五十音順、申請予定、法人格略〉
	自動化推進協会	日本金属プレス工業協会	日本食品機械工業会	日本福祉用具・生活支援用具協会	日本溶接協会	
	情報通信ネットワーク産業協会	日本クリーン環境推進機構	日本鍛圧機械工業会	日本福祉用具供給協会	日本ロボット学会	
	製造科学技術センター	日本建設機械工業会	日本鉄鋼協会	日本物流システム機器協会	マイクロマシンセンター	
	精密工学会	日本建設機械施工協会	日本電気計測器工業会	日本フルードパワー工業会	ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会	
	全日本プラスチック製品工業連合会	日本工作機械工業会	日本電機工業会	日本ベアリング工業会		
	テクノエイド協会	日本産業機械工業会	日本電気制御機器工業会	日本ベルト工業会		
	日本アミューズメントマシン協会	日本自動車工業会	日本塗装工業会	日本防錆技術協会		

前回実績データ (2019年)

● 出展規模

出展者数 **637** 社・団体

出展小間数 **3,060** 小間

うち海外出展者数 **95** 社・団体 **389** 小間 **16** カ国

● 来場者数

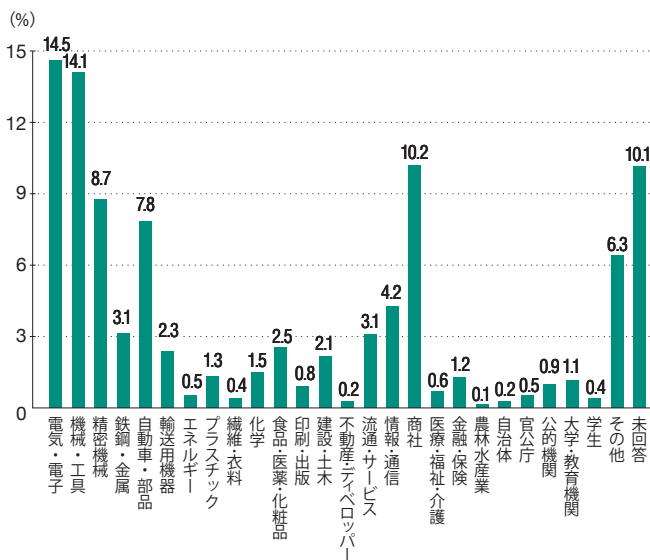
開催日	天候	人数 (名)
12月18日 水	晴れ時々曇り	31,939
12月19日 木	曇り一時雨	37,068
12月20日 金	晴れ時々曇り	42,697
12月21日 土	曇り	29,429

合計 **141,133**

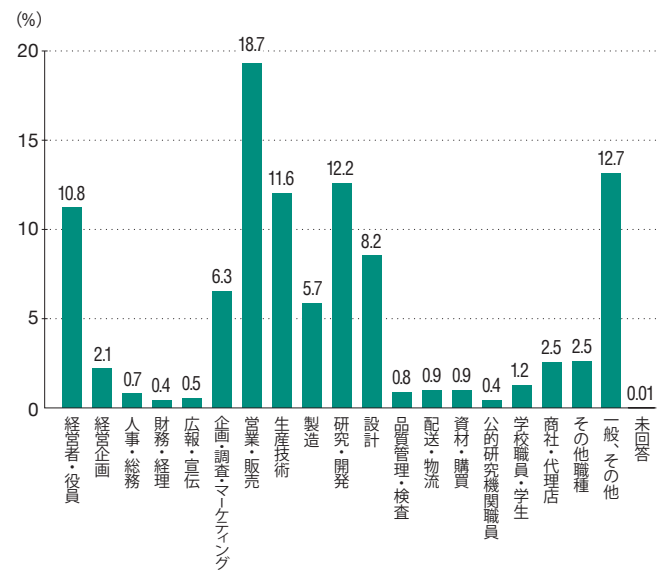
※うち海外来場者数 64 カ国 7,308 名

● 来場者アンケート (回答数:30,000名)

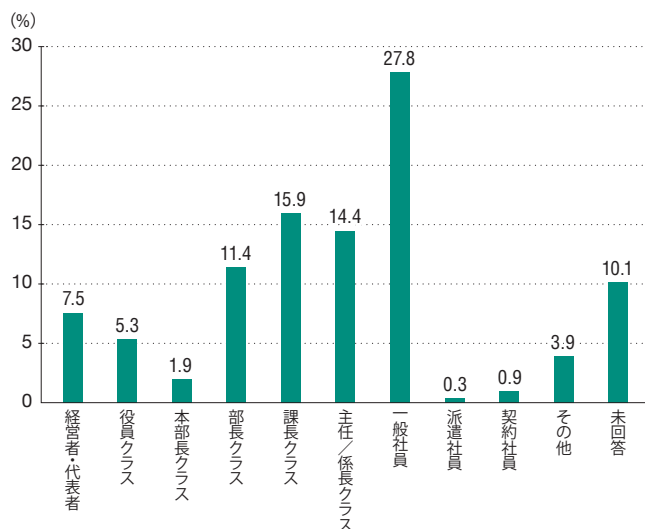
Q1 あなたの所属団体の業種は？



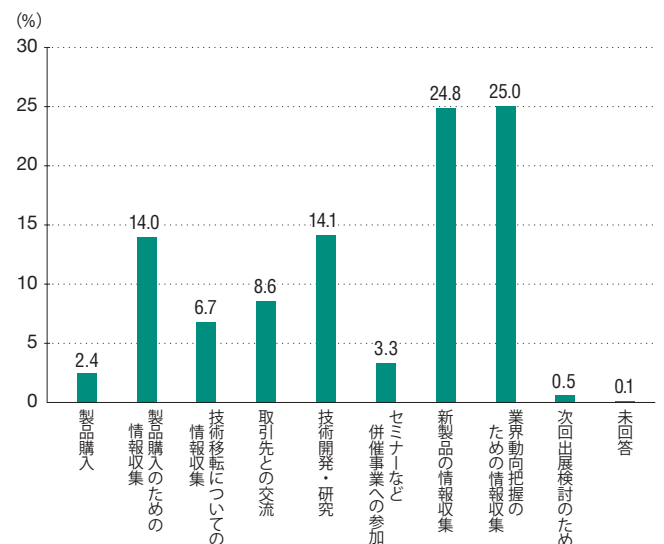
Q2 あなたの職種は？



Q3 あなたの役職は？



Q4 来場目的は？



併催ゾーン・企画

部品供給装置ゾーン New!

部品供給装置は、半世紀以上にわたり日本のものづくりにおいて自動化・省力化を支えてきました。2019年まで「部品供給装置展」として展示会を開催してきましたが、国際ロボット展との親和性を高めるべくゾーンとしてリニューアルしました。部品供給装置の技術と発展を広く世間へアピールし評価いただく場として、さらなる飛躍へとつなげます。

主催 日本部品供給装置工業会
日刊工業新聞社



マテハン・ロボットゾーン New!

人材確保が難しい現代では、ロボット・IoTを活用した自動ピッキングシステム、RFIDなどを活用した管理システム、自動搬送・仕分けなど、マテハン機器の進化によって省人化・標準化が進むと予測されています。ロボットの導入が進む物流業界に、さらなる相乗効果を発揮するマテハンゾーンを展開します。

主催 一般社団法人日本物流システム機器協会
日刊工業新聞社



つくろ☆ 国際ロボット展 土曜日限定!!

「2017国際ロボット展」からシリーズ化したこの企画も3回目。今回は「過去と未来」をテーマに、ものづくりの入口となる工作教室から、ロボット体験、そしてロボット展の歴史から未来のロボットを考えるコーナーまで、幅広い年代層が楽しめる企画を実施します。

主催 日刊工業新聞社



● 各種フォーラム・セミナーの開催

会期中、会場内・オンラインそれぞれで、魅力的なフォーラム・セミナーを開催します。

『iREXロボットフォーラム』

『NEDOロボット・AIフォーラム』

『ロボット・ICTが拓くスマート農業の未来』

『建設生産・管理システムにおけるAI・ロボットの活用』 など

※2019年開催実績

● ロボットアイデア甲子園最終発表会・表彰式

産業用ロボットの新たな活用アイデアコンテスト「ロボットアイデア甲子園」の地方予選において、最優秀者に選ばれた高校生・高専生による最終プレゼンテーションと表彰式を行います。

主催 FA・ロボットシステムインテグレータ協会
一般社団法人日本ロボット工業会



来場プロモーション(予定)

国内外に向けて、メディアの強みを最大限に生かしたさまざまな来場プロモーション活動を行います。

●新聞／専門誌

総合産業紙「日刊工業新聞」で本展を告知、来場動員を図ります。出展者の紹介、最新情報を掲載し、エンドユーザーの確実な来場につなげます。また各種専門誌で本展特集記事の掲載を行い、質の高い来場者層への積極的な告知を行います。



●Web／デジタルメディア

国際ロボット展公式Webサイト

国際ロボット展公式 Web サイト・特別サイトやSNS上で、展示会・フォーラム・シンポジウムや併催事業などの情報を随時発信します。公式Webサイト上では、出展者の企業情報、出展製品を掲載し、出展効果を高めます。



<https://biz.nikkan.co.jp/eve/irex/>



日刊工業新聞電子版

「日刊工業新聞電子版」で、展示会やロボットの関連情報を連日掲載し、来場誘致を行います。

日刊工業新聞 電子版

<https://www.nikkan.co.jp>



ニュースイッチ

日刊工業新聞のニュースを分かりやすく配信し、幅広い層から支持を得ている「ニュースイッチ」で、本展の最新記事、およびロボットの旬なテーマを発信します。

ニュースイッチ NEWSWITCH

<https://newswitch.jp>



●DM・Eメール

日刊工業新聞社の展示会・セミナー・フォーラム受講者などをもとに構築したデータベースを活用し、約20万件にDM・Eメールでの来場案内を行います。



●招待券

本展の招待券を約100万部配布し、幅広い業種からの来場動員を図ります。また、英語、中国語などの電子招待券を作成し、大使館、各国のロボット関連団体などを通じて本展の幅広い周知と来場誘致を行います。



●ニュースリリース／プレス発表会

本展開催に関するニュースリリースを、国内外500社の報道機関に発信します。また、プレス発表会を開催し、各種メディア媒体に広くPRします。

前回プレス発表会



● メディア広告

首都圏鉄道網を活用した車内・駅構内でのPR動画広告や主催者インタビューなどを実施し、幅広く来場者へ発信します。



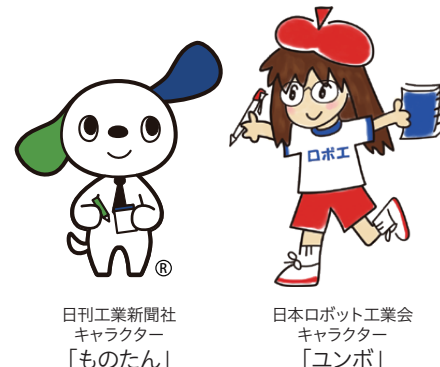
● 海外プロモーション

海外関連団体、大使館の協力によりロボットユーザーを中心に来場を誘致します。海外展示会で本展の周知・来場動員を行います。



● マスコットキャラクターを使った発信

日本ロボット工業会、日刊工業新聞社のマスコットキャラクターを活用し、幅広いPRを実施。公式ツイッターや展示会レポートなど、本展を違った切り口で発信します。



メディア報道実績

国内外の多くのメディアにより「2019 国際ロボット展」が報道されました。

● TV／ラジオ

「スーパーJチャンネル」	テレビ朝日
「ワールドビジネスサテライト」	テレビ東京
「FNN Live News α」	フジテレビ
「TOKYO MX NEWS」	東京メトロポリタンテレビジョン
「首都圏ネットワーク」	NHK
「news every.」	日本テレビ
「あさチャン!」	TBSテレビ など



※画像はイメージです。

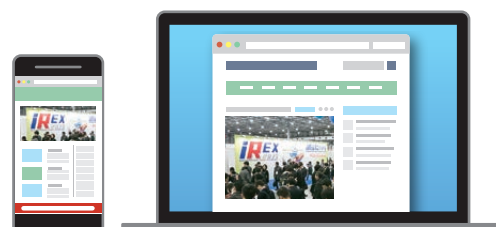
● 新聞

日刊工業新聞	日本物流新聞
日本経済新聞	オートメーション新聞 など
読売新聞	



● Web

ロボスタ	NHK NEWS WEB
Yahoo!ニュース	GIZMODO JAPAN
エキサイトニュース	BUSINESS INSIDER JAPAN
gooニュース	NewsPicks など
ITmedia NEWS	



※画像はイメージです。

出展対象

産業用ロボット(IR)

● 各種製造用ロボットと応用システム

- 樹脂成形
- プレス
- 溶接
- 塗装
- 機械加工
(ロード・アンロード・切断・研磨・バリ取り)
- 組立
- 電子部品実装
- クリーンルーム
- 食品・化粧品・医薬品
- 測定・検査・試験・認証
- 研究・開発・実証
- 入出荷
- マテリアルハンドリング・搬送
- 仕分け・ピッキング・包装
- AGV(無人搬送車) 他

● 要素技術・関連機器

駆動・センサ・制御系

- モータ
- ジョイント
- 油空圧機器
- アクチュエータ
- ロボットアーム、ハンド
- 電気機器
- 搬送機器
- エンドエフェクタ
- センサ
- 認識技術(画像、音声、接触等)
- 変減速機、減速機
- 計測機器 他

構成要素

- 歯車、ねじ
- ケーブル
- コンポーネント
- 治具 他

人工知能(AI)

- ビッグデータ
- クラウド
- 機械学習・ディープラーニング
- コントローラ
- 制御コンピュータ
- OS、ミドルウェア
- ソフトウェア
- FA機器 他

● ロボットSler(ロボットシステムインテグレータ)

- 開発・設計
- 工場向け
- サービス業向け 他
- 保守・メンテナンス
- 物流・小売業向け

● ロボットシミュレーション&ビジョンシステム(IRV)

ロボットシミュレーション

- シミュレーションシステム
- シミュレーションソフト
- アプリケーションソフト
- ロボット教示システム
- 各種デジタル
生産システム関連機器
- CAD
- CAM 他

ビジョンシステム

- 画像処理機器
- 照明器・光源
- VR・AR
- CCDカメラ
- マイクロカメラ
- レンズ
- 画像認識装置
- 計測・解析システム
- 画像処理ソフト
- センサ
- マシンビジョン 他

併催
ゾーン

部品供給装置ゾーン

マテハン・ロボットゾーン

詳細につきましては、公式Webサイトをご確認ください。▶▶ <https://biz.nikkan.co.jp/eve/irex/>



サービスロボット(SR)

● サービスロボット

生活・暮らし

- 警備
- 受付・案内
- 接客
- 配膳、調理支援
- 清掃
- テレプレゼンス
- コミュニケーション
- エンターテインメント
- 物流・流通
- デリバリー
- AGV(無人搬送車)
- ドローン 他

インフラ・災害対応・建設

- 検査、補修
- 探索
- 各種作業用(原子力・電力・ガス・宇宙・海洋等)
- 土木・建設
- 研究開発
- ドローン 他

農林水産業・スマート農業・食品産業

- 作業支援(パワーアシスト)
- 自動走行・収穫
- 品質管理
- 除草
- ドローン
- 食品(包装、梱包)
- 調理・配膳 他

介護・福祉・医療・健康

- 移動支援
- 移乗介助
- 入浴支援
- 排泄支援
- リハビリ支援
- 見守り
- 手術支援、手術シミュレーション
- コミュニケーション
- 感染症対策
- 検査
- スクリーニング 他

人材育成・教育

- 教育
- 教材(プログラミング等)
- ロボット競技会
- 出版
- 翻訳 他

● 要素技術・関連機器

駆動・センサ・制御系

- モータ
- ジョイント
- 油空圧機器
- アクチュエータ
- ロボットアーム、ハンド
- 電気機器
- 搬送機器
- エンドエフェクタ
- センサ
- 認識技術(画像、音声、接触等)
- 変減速機、減速機
- 計測機器 他

人工知能(AI)

- ビッグデータ
- クラウド
- 機械学習・ディープラーニング
- コントローラ
- 制御コンピュータ
- OS、ミドルウェア
- ソフトウェア
- FA機器 他

構成要素

- 歯車、ねじ
- ケーブル
- コンポーネント
- 治具 他

次世代UI(ユーザーインターフェース)

- VR・AR
- ウェアラブル 他

小間タイプ・料金

1小間（間口 2.97m × 奥行 2.97m × 高さ 2.7m：約 9 m²）につき次の通りとします。

日本ロボット工業会会員

正会員	330,000円 (税込)
準会員 (Sler協会会員)	374,000円 (税込)
賛助(法人)会員	374,000円 (税込)

※会員種別については、(一社)日本ロボット工業会の Web サイトをご確認ください。

<https://www.jara.jp/about/index.html>

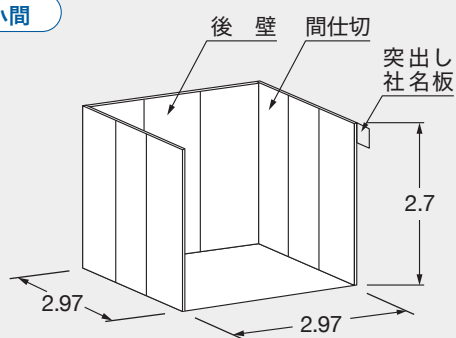


一般・海外、自治体・公共機関

一般・海外	440,000円 (税込)
自治体・公共機関	374,000円 (税込)

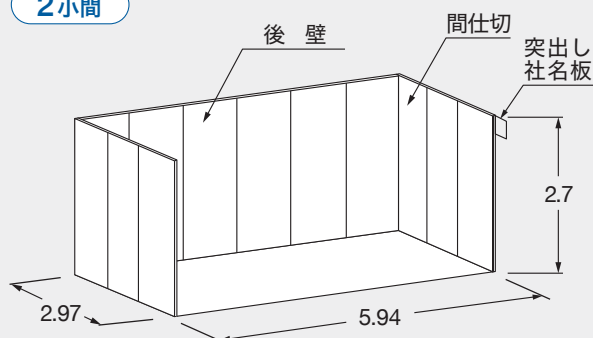
横列小間

1小間



W2.97m×D2.97m×H2.7m

2小間



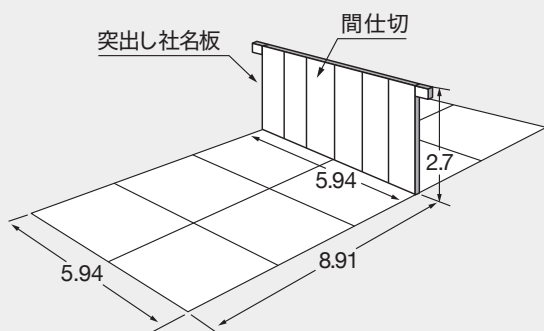
W5.94m×D2.97m×H2.7m

- 後壁、間仕切、突出し社名板を設けます。
- 後壁、間仕切はシステムパネル白色仕上げです。

- カド小間の場合、通路側の間仕切は、出展者からの申し出がない限り設けません。
- 後壁の取り外しは、隣接小間の有無に関わらず原則としてできません。

複列小間

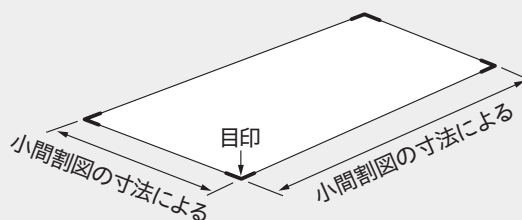
4小間以上の偶数小間



- 間仕切、突出し社名板を設けます。
- 間仕切は、システムパネル白色仕上げです。

島小間

原則 50小間以上



- 区画を床に印したスペース渡しとなります。
- 突出し社名板は事務局より小間の装飾完成後、見やすい位置に取り付けます。

※いずれの小間にも電源・照明・カーペット等はありません。

出展申込要領

● 出展申込方法

出展申込書(別添)に必要事項をご記入のうえ、事務局へ✉メール添付または〒郵送でお送りください。
出展申込書の内容を確認後、請求書を送付いたします。

出展申込期限

2021年8月31日(火)

出展料金支払期限

2021年9月30日(木)

※会場収容力や申込状況などを考慮し、出展小間数を調整させていただく場合があります。 ※予定小間数に達した場合、申込期限前でも締め切らせていただきます。

● 開催までのスケジュール(予定)



● 出展契約の変更または取り消し

既に申し込まれた小間に対する変更または取り消しをする場合は、全て文書にてその理由を明記し、事務局の承認を得てください。出展を取り消された場合、下記の通りキャンセル料を申し受けます。

申込書受理日から
出展者説明会前日まで

出展料金の **50%**

出展者説明会
当日以降

出展料金の **100%**

● 小間位置について

小間位置については出展物の内容・形状・申込順位・小間数・会場構成等を総合的に勘案し、事務局で決定いたします。小間位置は出展者説明会(2021年11月予定)にて出展者に発表します。

出展者セミナー(有料)

出展者による製品・技術説明会など自由な発表の場を提供します。

会場 「2022国際ロボット展」内 特設会場

定員 100名(予定)

備品 演台、PC、プロジェクター、マイク、スクリーン、椅子

料金 1セッション **165,000円**(税込)

時間 1セッション 40分 以内(質疑応答を含む)

募集枠 3月9日(水)～12日(土)で 24 セッション

● タイムスケジュール

	3月9日(水)	3月10日(木)	3月11日(金)	3月12日(土)
10:30～11:10	A	G	M	S
11:30～12:10	B	H	N	T
12:30～13:10	C	I	O	U
13:30～14:10	D	J	P	V
14:30～15:10	E	K	Q	W
15:30～16:10	F	L	R	X

注意事項

- 発表企業・団体は、「2022国際ロボット展」の出展者に限ります。
- 申込受付は先着順とし、タイムスケジュールは事務局で調整します。
- 配布資料等は発表者で準備してください。
- 聴講料は無料とさせていただきます。
- 会場はクローズド形式になります。

申込期限

2021年8月31日(火)

募集枠に達し次第、締め切りとなります

パッケージブース

参考: 1小間基本パッケージ

※詳細・申込方法は出展者説明会でご案内いたします。

●1小間基本パッケージ

88,000円(税込)

2小間以上のパッケージブースもご用意しています。料金・詳細は出展者説明会でご案内いたします。



●1小間基本パッケージ設備

パンチカーペット	1式
パラペット・社名プレート W1800×H300	1式
受付カウンター W900×D450×H930	1台
貴名受	1個
パイプ椅子	1脚
LED照明(蛍光灯) 21W	2灯
2口コンセント	1個
電気幹線工事・電気使用料	1kW

※1kWを超える場合は別途電気工事をお申し込みいただきます。
※基本パッケージは角小間でも社名プレートは1枚です。
※基本パッケージはパンチカーペットの色が選択可能です。

感染症対策について(予定)

日本展示会協会のガイドライン等を参考に、
本展では以下のような感染症対策の実施を予定しています。

- 関係者・来場者へのマスク着用徹底、手洗い・手指消毒の声掛け
 - 会場入口での検温実施、会場内の定期的な換気
 - 待機列等でソーシャルディスタンスを保つための各種表示の設置 など
- その他、会場の東京ビッグサイトが定めるガイドラインに基づいた各種対策を行います。

※新型コロナウイルス感染状況によって、対策内容は変動します。

本展では厚生労働省の接触確認アプリ「COCOA」のインストールを推奨します。
ご協力をお願いいたします。

厚生労働省
新型コロナウイルス
接触確認アプリ
「COCOA」について



2022国際ロボット展 運営・実行組織 (2021年4月現在)

運営委員会

委員長	山口 賢治	ファナック株式会社	代表取締役社長 兼 CEO 兼 CIO
委員	富士原 寛	一般社団法人日本ロボット工業会	専務理事
委員	饒波 正紀	日刊工業新聞社	取締役 総合事業局長

実行委員会

委員長	小川 昌寛	株式会社安川電機	取締役 常務執行役員
委員	天澤 誠二	川崎重工業株式会社	ロボットディビジョン 営業総括部 営業企画部 部長
委員	福田 尚幸	株式会社デンソーウェーブ	セールス・マーケティング統括本部 マーケティング本部 セールスプロモーション部
委員	服部 祐人	トヨタ自動車株式会社	未来創生センター R-フロンティア部 ヒューマノイドロボットグループ
委員	中川 俊男	ファナック株式会社	セールス推進・支援本部 展示会推進・支援部 部長
委員	河越 克己	株式会社不二越	ロボット事業部 ロボット企画部 企画・管理担当部長
委員	安藤 健	パナソニック株式会社	マニファクチャリングイノベーション本部 ロボティクス推進室 室長
委員	牧 恭平	三菱電機株式会社	本社 機器計画部 ソリューション企画グループ
委員	坂本 雅宏	株式会社安川電機	ロボット事業部 事業企画部 営業推進課 課長
委員	齊藤 直樹	ヤマハ発動機株式会社	ロボティクス事業部 FA統括部 営業部
委員	辻 直樹	株式会社ユーシン精機	執行役員 事業推進企画部 責任者
委員	矢内 重章	一般社団法人日本ロボット工業会	事務局 局長
委員	林 英雄	日刊工業新聞社	総合事業局次長 兼 イベント事業部長
事務局	坂本 啓司	一般社団法人日本ロボット工業会	業務部
事務局	甲斐 義憲	日刊工業新聞社	総合事業局 イベント事業部 第2G 副部長
事務局	松井 里奈	日刊工業新聞社	総合事業局 イベント事業部 第1G 副部長
事務局	山本 雅之	日刊工業新聞社	総合事業局 イベント事業部

● 出展について

Q 出展ゾーンの選択について（申込書「項目1」）

A 出展ゾーンは任意でお選びいただけます。
基本的には展示製品・サービスをPRしたい分野に合わせてご選択いただくことをおすすめします。

Q 2社以上の共同出展者と参加したい（申込書「項目3」）

A お申し込み時に事務局へご連絡ください。別途共同出展者の入力シートをお送りします。
自治体・団体で参加される場合も同様に対応可能です。

Q 申込時に詳細な予定展示製品が確定していない（申込書「項目7」）

A 予定展示製品の情報は 8 月 31 日（出展申込期限）までにご連絡ください。
また、初出展の場合は、主な製品情報などをお送りください。
なお、本展示会の趣旨とそぐわない製品・サービスの出展はお断りする場合があります。

Q 出展料金の請求について教えてください

A 出展料金ご請求は申込受領後に、請求書を発行いたしますので、
請求書記載の支払い期限までにお支払いください。その他ご要望等は事務局までご連絡ください。

● 小間装飾について

Q 出展料金に含まれるものは

A スペース、および隣接小間との壁面、後壁、突出し社名板のみのご提供となります。（電源・照明・カーペット等はついておりません。）カド小間の場合、通路側の間仕切りはありません。（島小間の壁面はありません。）

Q 装飾物の高さ規定については

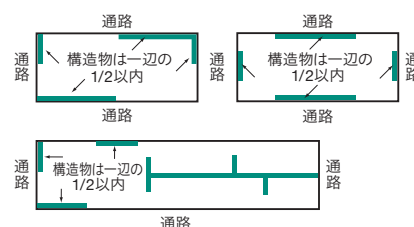
□ 2.7m以下 ■ 3.6m以下 ▨ 4m以下

小間タイプ	高さ制限	規定内容
横列小間	2.7m以下	● 通路及び基礎パネルから1mセットバックして3.6m以下
複列小間	3.6m以下	● 通路および基礎パネルから1mセットバックして4m以下 ● 隣接小間から1mの間は2.7m以下
島小間	3.6m以下	● 通路から1mセットバックして4m以下

※展示物については、高さ制限はありません。 ※新型コロナウイルス感染状況によっては、一部高さ制限をゆるめる場合があります。

Q 全面壁の規定については

A 他社と向かい合う通路側に構造物（壁面）などを造作する場合、構造物の寸法（幅）は小間寸法の1/2以内とします。残る1/2は見通しのきく構造（ガラス窓、ルーバー、パラペット、高さ90cm以下の壁面、棚など）としてください。



出展者一覧 (前回2019年)

※印は共同出展者

あ

アーケ
アールティ
アイエイアイ
IFR International Federation of Robotics
アイザック
アイシイ
アイシーハウス/テクタイト
※IC Haus
愛知県 大府市
愛知産業
※米国マグススイッチ社
アイ・ディー・エス
アイティメディア
IDEC
※IDECファクトリーソリューションズ
i-RooBO Network Forum
※AIDOR共同体・大阪市
※ヴィストン
※クラブウ
※東洋理機工業
アクサ・インベストメント・マネージャーズ
アサ電子工業
旭興産
アジリル
アステクノス
アセントロボティクス
アペルザ
アマゾンウェブサービス
Amorphology
アルゴ
アンドロボティクス
Amphenol Industrial
イーティーエイコンポーネンツ
イグス
因幡電機産業
イノフィス
INXPECT
インタフェース
ウエノテクニカ
AirTAC
HCI
※イーアイティー
※コーエイシステム
※悠電
HSOAR Precision Motion
H2L
エイテック
ABB
エクサウィザーズ
Exliteration
エクセル
SMFLレンタル
SMC
SPIエンジニアリング
SUS
エヌ・ディー・エス
NOK
※日本メクトロン
エヌテック
FADrone
FA・ロボットシステムインテグレート協会
エプソン販売
※セイコーエプソン
エムス・テック
AUTOLAB
オーム電機
沖電線
小倉クラッチ
オザック精工
Obodroid
OHMNIROBO
オムロン
オムロンソーシアルソリューションズ
ORIN協議会
オリエンタルモーター
OLPASO
OnRobot

か

介護ロボット東京フォーラム展示ゾーン
各務原市
※エフ・アイ・ティ
※中部地域Sler連携会
※日晃オートメ
カサイテクノ
KADO
金子コード
加茂精工
川崎重工業
カワダロボティクス
韓国貿易投資振興公社(KOTRA)/
韓国ロボット産業協会(KAR)
※AstroX
※BRAIT Korea
※DAINCUBE
※Erea-Tech
※Joeun Edu-Tech
※JOY DRONE
※MINIROBOT
※Robomation
※WOW Future Tech
※Yujin Robot
※ZEUS
カンタム・ウシカタ
※伊藤忠マシントクノス
関東精機
GUANGDONG JATEN ROBOT&
AUTOMATION
キーエンス
北川工業
北九州ロボットフォーラム/
北九州産業学術推進機構
※北九州地域を核としたSlerネットワーク
※九州工業大学 柴田智広研究室
※九州工業大学 社会ロボット具現化センター
※新日本非破壊検査
岐阜大学
木村洋行
キャドマック
キャプテンインダストリーズ
QRS
QKM Technology (Dongguan)
旭光電機
KUKA Japan
クリエイティブテクノロジー
クリエイティブマシン
クロイツ
群馬県産業支援機構
※ウエノテクニカ
※大道産業
※サンコー・インダストリアル・オートメーション
※システムセイコー
※タカノ
※日本省力機械
慧灵科技(深圳)
K-power Technology
ケーメックス
KEBA Japan
コアレスモータ
光進電気工業
厚生労働省/介護ロボット東京フォーラム
構造計画研究所
甲府精鋭
神戸高専 NEXT Robotics
コスメック
小原歯車工業
小森安全機研究所
近藤科学
近藤製作所

さ

SATECH
SERVO-ROBOT JAPAN
埼玉県産業振興公社
埼玉大学 辻研究室
サイベックコーポレーション

相模原市

さがみはらロボットビジネス協議会
※愛知産業
※F-Design
※大沢工業
※ステラ技研
※ビット・トレード・ワン
※ボード・プランニン
※メディアロボテック
※MEMOテクノス
産業技術総合研究所 知能システム研究部門
三共製作所
三恵工業
三桂製作所
サンコール
※フィンガルリンク
三松
三明機工
三友工業
山洋電気
三和ニードルベアリング
シーエムエス
CKD
※CKD日機電装
シーメンスデジタルインダストリーソフトウェア
CYS Model Technology
ジェイテクト
JMACS
ジェービーエムエンジニアリング
Genesis Robotics and Motion Technologies
ジェビコ
シチズンマイクロ
シナノケンシ
芝浦工業大学
Zivid
※Micro-Technica
ジマテック
ジャパンイノベーションチャレンジ
Shanghai Jiuxie Machinery
Zhuhai KwunHing Machinery & Electronic
シュマルツ
シュメアザール
シュンク・ジャパン
Changzhou FTX Motors
JOHNAN
昭洋精機
Syrius Robotics
新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
新興技術研究所
新光電子
Shenzhen EAI Technology
Shenzhen Han's Motion Technology
SHENZHEN YUEJIANG TECHNOLOGY
※ECOGUARD MACHINE PROTECTION
※JIANGSU HAUTO NC TECHNOLOGY
新東工業
新陽冷熱工業
スギノマシン
スキューズ
鈴幸商事
スター精機 アインツ事業部
ストープリ
スペイシャル
住友重機械工業 PTC事業部
住友重機械工業 メカトロニクス事業部
住友商事マシネックス
Zhejiang Laifual Harmonic Drive
西部電機
セニット・ジャパン
ゼネテック
XELA Robotics
泉州電業
※エヌビーエス
先端材料技術協会
※エーシーエム
※エコロジーブレイン
※グラフィックデザイン
※サントレーディング
※新報国製鉄

※TISM
※東京R&Dコンポジット工業
※羽生田鉄工所
蘇州穿山甲機器人
※バンゴリン・ロボット・ジャパン
ソフトロニクス
ソラリス
ソリッドワークス・ジャパン
SOLOMON Technology
た
大新技研
大電
ガイドー
第8回ロボット大賞合同展示
ダイヘン
大和電業
Taiwan Automation Intelligence and Robotics Association (TAIROA)
※Coretronic
※DMP Electronics
※GMT GLOBAL
※Inner-Energy Technology
※KAIPHONE TECHNOLOGY
※LEADERG
※LIPS
※MINCHEN GEAR
※SF TECHNOLOGY
※SOLOMON Technology
※SYNTEC TECHNOLOGY
※TAIWAN ALPHA ELECTRONIC
※YING HAN TECHNOLOGY
高丸工業
匠
タツタ
タツタ電線
※タツタ立井電線
※中国電線工業
多摩川精機
Team Cross FA
※FAプロダクツ
※オフィス エフエイ・コム
※日本サポートシステム
※ロボコム
チトセロボティクス
China Machinery Engineering Suzhou
中央大学 中村研究室
中国国際工業博覧会
※上海ロボット協会
中国ロボット産業連盟 (CRIA)
中小機構 海外展開相談コーナー
筑波エンジニアリング
筑波大学 モーションコントロール研究室
TACC
THK
DMカードジャパン
DMG森精機
DeepRobotics
データロジック
デクシス
テクノハンス
Techman Robot
デンソーウェーブ
ドイツ貿易・投資振興機関 (GTAI)
東京測器研究所
東京都立産業技術研究センター
東京理科大学
Tokyo Robot Collection／東京都
東京ロボティクス
東芝機械
東北大学 田所・昆陽・多田隈研究室
東北大学 田中(秀)研究室
東北大学 FingerVisionプロジェクト
東和コーポレーション
トーカドエナジー
Doog
常盤産業
※トキワシステムテクノロジーズ
トビー工業
トビー・テクノロジー
富山県新世紀産業機構
※小矢部精機
※小泉製作所 (IKS)
※とやまロボット技術研究会
※ユニオンテクノ・石金精機
豊田市
トヨタ自動車
トライエンジニアリング
トランSEND

な

ナノコート・ティーエス

ナプテスコ

鍋屋バイテック会社

ナベル

ニコン

ニチコン

日伝

日刊工業新聞社

日韓産業技術協力財団

ニッタ

日本精工

日本トムソン

日本トレルボルグシーリングソリューションズ

日本ベアリング

日本航空電子工業

日本ジッパーチュービング

日本電産シンボ

日本認証

※セーフティグローバル推進機構

日本バイナリー

日本ビスコ

日本物流システム機器協会

日本貿易振興機構(ジェトロ)

日本包装機械工業会

日本ムーグ

日本ロボット学会

日本ロボット工業会

ニュースダイジェスト社

Next Technology

農林水産省

※上山集楽みんなの農業コンソーシアム

※宇都宮大学/アイ・アート

※オプティム

※三陽機器

※シプヤ精機

※ナイルワークス

※日本総合研究所

※農研機構 農業技術革新工学研究センター

※農研機構 農村工学研究部門

※パナソニック

※パワーアシストインターナショナル

※立命館大学・オサダ農機

(露地野菜生産ロボット化コンソーシアム)

は

パーツサプライセンター

※Xiamen Wain Electrical Co.,Ltd.

ハーテック

ハーモテック

ハーモニック・ドライブ・システムズ

ハイウイン

バイナス

ハイボット

パナソニック

浜口ウレタン

林製作所

Hangzhou Seenpin Robot Technology

ピアブ・ジャパン

ピーアンドエフ

ビー・アンド・プラス

ビー・エル・オートテック

Piezo Sonic

樋口工作所

VisionComponents

ひろしま生産技術の会

※ICHIKAWA

※インタフェース

※エネルギー・コミュニケーションズ

※オフィス エフエイ・コム

※キーレックス

※ニイテック

※ハイエレコン

※ヒロテック

※平和情報システム

ヒロセ電機

フアナック

福井大学

※若狭湾エネルギー研究センター

福岡県ロボット・システム産業振興会議

※正興電機製作所

※匠

※テムザック

福島ロボットテストフィールド

※磯上歯車工業

※エクストエンジニア

※スペースエンターテイメントラボラトリ

※スペースワン

※日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門
※Fabo
※プロドローン
FUJI
不二越
富士製作所
富士フイルム
双葉電子工業
フューチャアグリ
ブロードコム
北陽電機
Bot3
ま
マイクロスター
マイクロテック・ラボラトリー
マクシスエンジニアリング
マクソンジャパン
マツイ
マッスル
Manufacturing Expo
豆蔵
三重ロボット外装技術研究所
三木ブーリ
ミツイワ
※バイナス
ミツトヨ
三菱重工業
三菱商事
三菱電機
三菱電機システムサービス
三菱電機特機システム
ミネベアミツミ
妙徳
Mira Robotics
MUJIN
メイキコウ
メイコー
Mech-Mind Robotics Technologies
メトロール
Mobile Industrial Robots
モリタアンドカンパニー
や
安川電機
ヤナギハラメカククス
山形大学 ソフトマターロボティクスコンソーシアム
山善
ヤマハ発動機
ユーシン精機
ユービーアール
UFACTORY
Eureka Robotics
ユカイ工学
豊電子工業
Universal Robots
ユニパルス
※ロボテック
吉野川電線
ら
Rapyuta Robotics
Leaderdrive Harmonious Drive System
リッコー
立命館大学ヒューマノイドシステム研究室
※KYB-YS
※モリ工業
リバスト
リンクウィズ
リンクス
LeiShen Intelligent System
レイデント工業
LEONI Wire & Cable Solutions Japan
レニショー
ローデ・シュワルツ・ジャパン
ロゼッタ
ロボカップアジアパシフィック2020あいち開催委員会(愛知県)
Robosen
ロボット革命イニシアティブ協議会(RRI)
ロボットサービスイニシアチブ(RSi)
RoboMaster日本委員会
わ
World Robot Summit
ワコーテック
早稲田大学 菅野研究室
Wandelbots



© UDAGAWA YASUHITO 1998

出展のお申し込み・お問い合わせ先

「2022国際ロボット展」事務局 日刊工業新聞社 イベント事業部

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 TEL:03-5644-7220

● E-mail: irex@media.nikkan.co.jp ● Webサイト: <https://biz.nikkan.co.jp/eve/irex/>

